

国立大学法人 北海道大学

BYOD環境構築やポートフォリオなど 新機能追加に柔軟対応できる素地として in Campus Portal を導入！

前身の札幌農学校の初代教頭、ウィリアム・スミス・クラークの言葉、「少年よ、大志を抱け」。このモットーを受け継ぐ北海道大学は、2026年に創基150年の節目を迎える。社会で大学が果たすべき役割の重要性を深く認識する同校では、建学以来の基本理念を踏まえ「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」と改革を大胆かつ着実に進めている。その布石として、同校で情報環境の最適化を推進する情報基盤センター(2003年設置／全国共同利用施設)主導で、全学レベルで教育情報システムの刷新が実施された。注目されるのが、将来の進化・発展を見据え柔軟な拡張性を有した情報基盤にすべく、学生向けポータルに in Campus Portal が採用されたこと。SSOで授業支援システムやWeb履修登録システム、メール、カレンダーなど各サービスを使いこなせる新たな仕組みを実現している。

お客様が実現できたこと

- ✓ ICTの進化まで視野に入れ柔軟に機能追加やシステム拡充に踏み切れる柔軟なスケーラビリティを実現。
- ✓ 柔軟なカスタマイズ性で旧ポータルの機能も継承しシステム入替後の混乱を回避。
- ✓ 親和性の高さも発揮して教務情報システムと自動連携を果たし運用業務の効率化にも大きく寄与。

▶お客様プロフィール

法人名：国立大学法人 北海道大学
URL：<http://www.hokudai.ac.jp/>

住所：北海道札幌市北区北8条西5丁目

設立：1918年
学生数：17939名(2015年5月現在)

- 大学院に重点を置く基幹総合大学。日本最初の近代的大学として1876年に設立された札幌農学校をルーツに、帝国大学を経て新制大学に至る中、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」という教育研究に関わる基本理念を掲げ、長い歴史を育んでいる。
- 時代毎の社会要請に応えながら国立大学法人として歩み始め、新世紀における知の創成・伝承・実証の拠点として発展するため、実学重視の理念の普遍的かつ今日的意義を追求し、現実世界と一体となった普遍的真理や北海道の特性を生かした学問の創造を推進。産学官の連携協働の拡大を通じ、研究成果を北海道、さらに日本、世界に還元することを目指している。





国立大学法人 北海道大学
博士（人間科学）
情報基盤センター 准教授
重田 勝介氏

「in Campus Portalの高い柔軟性には感心しました」

「まず最初に、メニューの並べ方など細かい部分含め旧ポータルのご操作環境の引き継ぎは必須要件ですとお伝えしたのですが、その瞬間に、“大丈夫ですよ”と即答いただきました。カスタマイズ性の高さはもちろん、教務情報システムなど他システムとの連携もスムーズ。アカデミック領域で数々の導入実績を持っているキャノンならではのSI力を感じました」



お客様のご要望

- ▶ BYOD やポートフォリオの追加をはじめ時代の求める ICT 環境への対応が容易なプラットフォームがほしい。
- ▶ メニューの並べ方など細かい部分含め旧ポータルの操作環境を引き継げるカスタマイズ性の高さが必須要件。
- ▶ 新ポータルを軸に他サービスのシステムと密に連携して運用業務などの効率化も促進させたい。



導入前の課題と背景

早急にBYOD環境構築の素地を整備したかった

全学レベルで学内情報システムの刷新に臨まれた経緯を教えてください。

「私たちの場合、5年に1度のペースで学内情報基盤を見直しています。これまで総理論演算性能 43TFLOPS・2000以上のバーチャルマシン構成など国内最大規模のアカデミッククラウド構築でリソースを最適化したり、学生証のIC化やSSOの全学導入などを実践していました。今回の更新では学内情報システムにとどまらず、ネットワーク強化や教育用無線LANの320AP導入による拡充、教育用ソフトウェアの一括購入体制構築など、包括的な刷新に着手。グローバル・オープン・スタンダード・ユーザブルのキーワードを掲げ、全学的な視野で教育研究の高度化と質の向上に資する最新ICT環境への整備を目指しました。そのような中で、学生たちの教育学習支援に向けた課題として、BYOD環境の構築がありました。学生にとって自前のPCやスマホを学内で利用するのは、もはや特別なことではありません。将来的には新たなデバイスの登場など対象機種幅は広がり多様なOSへの対応も不可欠です。しかし、現状ではオンプレミスのメールシステムなどを統合サービスとして提供しながら拡張を続けてきたため、本格的な対応が課題になっていました」



導入の必然性

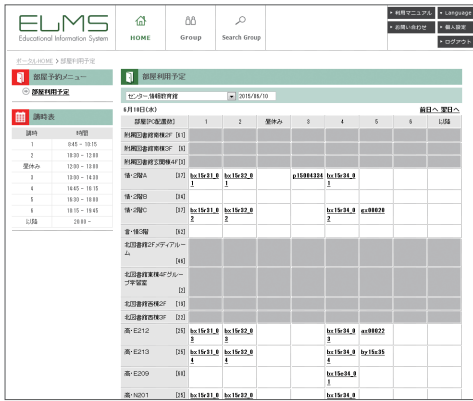
柔軟な拡張性でin Campus Portalを採用

BYODの課題解決に向け、どのような取り組みが行われたのでしょうか。

「BYOD環境構築の素地として教育情報システムのポータル的大幅な刷新を決断しました。学生にとって情報の入口ですから、そこをしっかりと整備した上で授業支援システムやWeb履修登録システム、メール、カレンダーなど各サービスがぶら下がる構成への変更です。この仕組みだと、今後、新たなサブシステムが加わったりしても、柔軟に拡張していけるメリットがあります。そういう将来のICT環境の進化を見据えた思想で仕様や要件を決め、刷新に臨みました。その結果、提案されたのがin Campus Portalでした」

in Campus Portal で魅力を感じた点はどこですか。

「まず、インターフェイス、GUIの部分のカスタマイズが非常に容易な点です。実は今回新たに作り直したポータルシステムのメニューや全体的な構成などは、旧システムの内容をかなり引き継いでいます。その理由は、大きく使用感が変わることによって学生たちに違和感を与えないようにとの配慮から、あえて旧システムのメニュー構成や機能を継承しつつ in Campus Portal の良さを活かすことにこだわりました。よくパッケージ製品は融通が利かないと聞きますが、in Campus Portal は GUI の機能も豊富で柔軟に対応できた点は、非常に良かったですね」



旧システムの機能を踏襲した
in Campus Portal「部屋利用予定画面」

は、旧システムの内容をかなり引き継いでいます。その理由は、大きく使用感が変わることによって学生たちに違和感を与えないようにとの配慮から、あえて旧システムのメニュー構成や機能を継承しつつ in Campus Portal の良さを活かすことにこだわりました。よくパッケージ製品は融通が利かないと聞きますが、in Campus Portal は GUI の機能も豊富で柔軟に対応できた点は、非常に良かったですね」

工夫 運用の工夫 新システムにも動じない体制で運用中

新ポータルのポテンシャルはいかがですか。

「現在、北海道大学ではグローバル人材の育成を強化するため、学士課程の学生を対象とした新渡戸カレッジや大学院課程の学生を対象とした新渡戸スクールを2015年に開校しました。その中で新渡戸スクールにおいてポートフォリオシステムの導入がはじまっています。これを全学展開する計画があり、今回整備したポータルシステムに他のサービスがぶら下がっていく構成であれば、ポートフォリオシステムを入れて認証連携をするだけなので、拡張が非常に容易な体制を整備できました。今後はポートフォリオシステムだけでなく、大学の教育学習環境をどういう風に整備していくかというときに、時代時代に必要なシステムも変わってくると思いますので、そういう新システムの拡張に際してもストレスなく対応できるように in Campus Portal で整備できたのは、大きかったですね」

運用にはどのような姿勢で臨まれていますか。

「単に新たなシステムに刷新しました、で終わるのでは

なく、次の更新時期が来る5年後に向けしっかり運用していきましょうという姿勢です。新システムが立ち上がった初年度ですから、運用して初めて見えてきた不具合や機能改善を求める意見など、いくつも寄せられています。それに対し、メジャーなバージョンアップを毎年1回の頻度で行う、細かいバグには随時対応する、学内の問合せに迅速に対応するなど、学生たちが安心して改修を待てる体制作りに取り組んでいます。幸い、in Campus Portal に関しては大過なく運用できていますので、より学内に根付くシステムにしようと前向きに取り組んでいるところですね」

成果 取り組みの成果 旧ポータルの操作感で性能アップを

in Campus Portal 導入後の成果はいかがでしょう。

「以前のポータル環境は、お知らせ通知、授業の課題の提出、掲示板、プロフィール編集、グループ作成など非常に多機能でした。今回 in Campus Portal ではお知らせを通知する、各システムをつなぐ、各種申請などの手続きを受け付ける、と機能を絞り、残りは他システムに委譲したのです。in Campus Portal のカスタマイズ性の高さ、拡張性の高さのおかげで、GUI もすっきりしたというのが実感ですね。特にお知らせ通知機能は学内に広く根付いていたものなので、使い勝手が大きく変わってしまったり、些細なことですがポータル内の文言が少し変わるだけでも戸惑うユーザーがいるなど、影響は大きいと思います。だからこそ、従来のポータルの仕様を踏襲できることが大前提だったわけですが、in Campus Portal は GUI を柔軟に変更できると担当エンジニアが太鼓判を押してくれていたため、導入検討段階からスムーズに作業を進めることができました」



機能を限定し GUI を見直した
[in Campus Portal TOP 画面]

機能を限定し GUI を見直した [in Campus Portal TOP 画面]

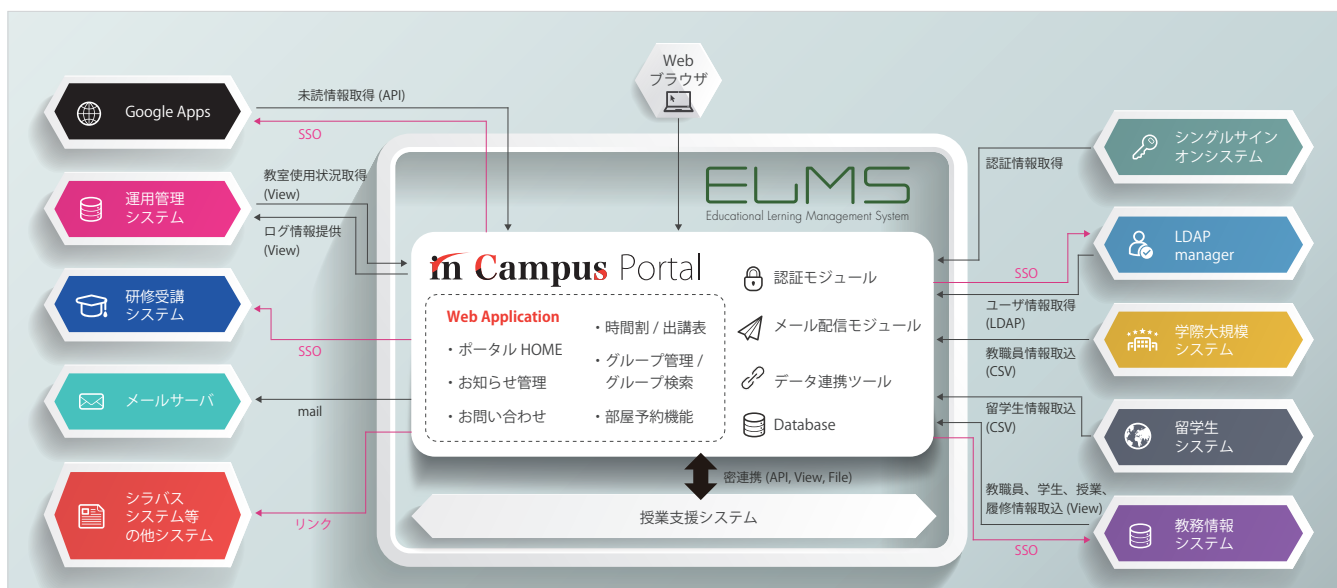
将来

将来の展望 いち早く BYOD 構築を果したい

最後に今後の課題や展望についてお聞かせください。
「学生データやシラバスなどの教務情報はこれまで手渡し入力でした。しかし、in Campus Portal と教務情報システムが自動連携を果たせたことで、運用業務の効率化も進みました。他システムとの連携性の高さも大き

な魅力ですね。今後は学内のネットブート端末に限らず BYOD 構築に向け、専用アプリ導入など検討を進めていきます。予習・復習をオンライン上で効果的に進め授業全体の質を高めるブレンド型学習が当たり前になっている今、自宅などを含めいろいろな場所でいろいろな端末を使う学生に便宜を図る意味からも、全学規模で対応を果たすことが急務ですね」

システム概念図



大学固有の「らしさの実現」を強力かつ柔軟にサポートする決定打！

in Campus Portal は、これまでキャノン IT ソリューションズが文教市場で培った IT 基盤システムの開発・構築・運用の技術ノウハウや豊富な実績をもとに独自開発した教育支援情報プラットフォーム。「パッケージ仕様に合わせる運用」とは異なり、個々の大学の「らしさの実現」を柔軟なカスタマイズ性でサポートします。

学内ポータルが求めるベーシックな機能を全網羅！

特に必要な基本機能をトータルに網羅しながら拡張性も高く、カスタマイズや新機能の開発にも柔軟に対応可能。いつでもどこでもスマートにアクセスできるデジタルキャンパスの実現に大きく寄与します。学内に流通する情報を統合管理し、学生、教員や教務スタッフが情報を共有・発信するツールに最適です。

Home Page キヤノン IT ソリューションズ 文教ソリューション ホームページ
<http://www.canon-its.co.jp/education/>

キヤノン IT ソリューションズ株式会社
SI サービス事業本部 文教事業部 文教営業部
TEL (03) 5730-7075

Canon キヤノン IT ソリューションズ株式会社

●Microsoft, Windows, Windows ロゴは、アメリカ合衆国、日本およびその他の国で登録されている Microsoft Corporation の商標です。●Macintosh, Mac ロゴ, Quick Time は、アメリカ合衆国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。●その他、記載されている会社名、商品名は、一般に各社の登録商標または商標です。